

校 内 研 修 計 画

牧丘第三小学校

1 学校課題

本校は、標高742mの山間部に位置する全校児童11名の小規模校である。学校の周りには自然があふれ、子ども達はその中でのびのびと生活している。明るく素直な子が多く、学校行事や児童会活動や遊びなど、ほとんど全ての活動を学年を超えて仲良く行っている。運動会への高齢者の招待、三世代ふれあい交流教室、地域人材活用での授業実践など地域の方々とのつながりも深い。

また、児童数が少ないため、様々な体験活動を仕組むことができる。校外学習や音楽発表会などはいつも複数学年または全校での取り組みで、異学年間での学び合いができる良さがある。反面、人間関係が固定されがちであり、学習においては特定の考えに影響されやすいなどの傾向が見られる。少人数の利点を生かした授業を工夫しながら、確かな学力を身につけていくことが本校の課題である。

2 研究主題

『確かな学力を身に付けた児童の育成』
～言語活動の充実を図る実践を通して～

3 主題設定の理由

本校では、学校教育目標を『よく学び健やかでたくましく生きる児童の育成』とし、4つのめざす児童像を設定している。特に、めざす児童像の一つとして『志をもち進んで学ぶ子ども』を掲げ、進んで学習に取り組み、知識や技能を習得しそれを活用して課題を解決する力を育てることを目標としている。

平成23年度から本格実施された学習指導要領では「基礎的・基本的な知識及び技能」の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力等をはぐくむ」ことが明記されている。特に、「確かな学力」を形成する基盤としての「言語能力」の育成がすべての教育活動の基本的な考え方として重視されている。

本校は、異年齢集団での活動が多く、まとまりがあり、個々が多くの活躍の場面に恵まれるという良さがある。一方で各学年が2名から7名と少人数で構成されているため、特定の考えに影響されやすいなどの傾向が見られる。

このような実態を踏まえ、一昨年度から、研究主題を「確かな学力を身に付けた児童の育成～言語活動の充実を図る実践を通して～」とし、言語活動の充実を図ることで、確かな学力につなげる取り組みを続けてきた。その結果、授業の中で分かりやすく発表する児童や、それに対して自分の考えを発表する児童など、伝え合う姿が多く見られるようになった。また、自分の考えを深めたり、応用力を高めたりすることにつながった。本年度はこのテーマでの研究の3年目にあたり、研究のまとめの年となる。また、来年度の統合をひかえ、どんな場面でも実践的に言語活動ができる力を身につけさせたい。そこで今年度は、自分の考えを文章化して的確に表現する力や、どんな場面でも活発に意見交換できる力を育てていきたい。

以上のことから研究テーマを「確かな学力を身に付けた児童の育成～言語活動の充実を図る実践を通して～」とし、研究に取り組むこととした。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ①言語活動を充実させた授業づくり
 - ・教科や単元の特性を踏まえた言語活動を展開する。
 - ・「言葉」を重視した学び合いの活動を行う。
- ②日常的な言語活動・言語環境の充実
 - ・授業や日々の指導を通し言語環境を整える。
 - ・子どもの読書活動の推進を行う。
- ③少人数を生かした、個に応じた指導の工夫と評価
 - ・少人数だからできる教え合い活動などの実践を行う。

(2) 研究方法

①言語活動を充実させた授業づくり

・全学年での授業公開

②日常的な言語活動・言語環境の充実や少人数を生かした個に応じた指導の工夫と評価について、各学年で実践し、全職員で成果や課題を交流する。

年間校内研修計画

研究主任 石原喜久夫

研究テーマ	教科 領域	担当者	学年	時期
『確かな学力を身に付けた児童の育成』 言語活動の充実を図る実践を通して	本年度の研究の方向性・研究計画 橋上研究会	研究主任		4月
	学習会（理論研究），橋上研究会	研究主任		5月
	授業公開と研究討議	授業者	3年	6月
	橋上研究会	研究主任		7月
	教育課程還流報告	担当者		8月
	児童の実態分析（学力テストの結果から） 橋上研究会	研究主任 各担任		9月
	授業公開と研究討議 橋上研究会	授業者	6年	10月
	授業公開と研究討議	授業者	4年	11月
	橋上研究会 研究紀要作成の計画，教育課程の見直し	研究主任 各担任		12月 1月
	成果と課題，今年度研究のまとめ	研究主任		2月
	研究紀要作成 橋上研究会	各担当		3月